

令和6年7月定例記者会見要旨(令和6年7月30日)

1. 琴参バスが10月から減便を決めたが、市民への影響が懸念される。市として減便をどのように受け止め、また、市民への利便性確保に向けた対策を取る予定はあるのか、考えをお聞きしたい。

7月5日付でコメントを発表させていただきましたとおり、バス乗務員不足は全国的に問題となっており、2024年問題も相まって、路線バス減便の決断はバス事業者としてやむを得ない苦渋の決断であったと思われます。本市といたしましては、これまで交通事業者に対し、運行経費を補助することにより、公共交通の拡充や確保維持を図ってきましたが、単なる補助金の支出だけでは公共交通を維持できない時代となっております。減便の設定にあたっては、現在の利用状況を鑑みながら、利用者への影響が極力小さくなるように配慮いただいておりますが、市民生活への影響が出ることも懸念しております。

そのような状況において、公共交通の利便性確保に向けては、行政だけでなく、関係者間で連携して取り組む必要があるため、市民代表・学識経験者・交通事業者・行政機関などで構成される「坂出市地域公共交通活性化協議会」で継続的に審議を重ねております。このたびの路線バス減便に対しましても、特に減便の影響が大きい地域につきましては、路線バスと乗合タクシーとが連携して地域の交通手段を確保していく方向性を協議会において示したところ、承認いただき、現在具体化に向けて交通事業者と連携して地域住民と協議を進めているところでございます。

また、バスの運転手不足という課題への対策といたしましては、バス事業者として工夫を凝らして運転手確保に取り組んでいただいているところですが、行政としては公共交通の魅力向上も必要と考えております。運転手不足の原因として、新型コロナウイルス感染症拡大による公共交通利用者数の減少も影響していることが考えられ、本市といたしましても、引き続き公共交通無料デーなど利用促進の取り組みを進めることが、バス運転手という職業の魅力向上や、公共交通の確保維持にもつながるものと考えております。

直近では、昨日7月29日から中高生を対象に、夏休み期間の格安乗り放題定期券「中高生サマーパス」を販売し、中高生の公共交通利用を支援するとともに、中高生自ら公共交通の魅力に気づき、発信してもらうためのSNSキャンペーンを同時開催しております。

このようにして、従来の赤字補助にとどまらず、利用者支援により公共交通利用者を増やすことで、持続可能な公共交通を推進し、ひいては地域の活性化を図りたいと考えております。